

曹洞宗 圓祥山大安寺 住職:長岡俊應

〒039-4401 青森県むつ市大畑町本町80番地  
Tel 0175-34-2926 Fax 0175-34-6426  
E-mail info@daijanji.jp

# 大安寺報

名句・名言に学ぶ

ティク・ナット・ハン(禅僧)

もしあなたが詩人なら、一枚の紙のなかに雄大な雲が漂っているのを見てください。

雲がなければ雨はなく、雨が降らなければ樹は育たず、樹がなければ紙を作ることもできないのです。

このように、紙が存在するためには雲はなくてはならないもの、つまり、雲がなければ紙は存在しないのです。ですから、雲と紙は「相互存在している(interbeing)」のです。

ティク・ナット・ハン師は、ベトナム生まれの禅僧で、ベトナム戦争の終結を世界に訴えたほか、「行動する仏教」「社会参画仏教」を提唱し、自ら実践した方です。一九八二年に、南フランスに「ラムヴェイレッジ」を開設し、瞑想指導に努めてこられました。昨今では師の実践する「マインドフルネス」(今という瞬間に目覚めている力)が注目されています。その師の著名な冒頭の名句は、お釈迦様が説かれた「縁起」(全ての物事は相互依存により成り立っている)をシンプル、かつわかりやすく説明してくれています。私たちがまた、「雲」と同様に、縁起の

真実の中で生かされている存在です。両親がいてこの世に生を受け、家族や地域の人々、自然の恵みがあつてこそ「人間」として存在できているのです。とはいえ、そのことを「知識」として知っていても、そのことを我が事として実感し、感謝の念を抱くことのできる機会は日常の中ではあまりないのではないのでしょうか? その大変貴重な契機となるのが、「家族」や「大切な存在」の喪失です。その喪失感を乗り越えることで、私たちは「生き直し」の機会をも与えられるのです。



三月十五日に営まれる「涅槃会」は、お釈迦様が涅槃(真実のお悟りの世界)に入られたことに思いを馳せ、お釈迦様に感謝しその御恩に報いることを誓う機会。お釈迦様がいらっしゃったからこそ私たちはこうしてその教えに触れることができるのです。そして、その後のお彼岸には、私たちが支えてくださっていた大切な方々と心を触れ合わせることが出来ます。支えられていますからこそ、この「いのち」。お互いに大切に生き切りたいものです。 合掌

仏事

Q & A

第 15 回

Q. 葬儀の際の「引導」はどのような意味・目的があるのですか?

A. 葬儀の際、鉞(まさ)というシンバル様の楽器を打ち鳴らした後に行うのが「引導を渡す」儀式です。「引導」は、故人をみ仏の世界へと導き引き入れることを意味し、その際、導師は「引導法語」を唱え、故人の人柄や生き様を述べて仏弟子としての今後の生きる道を教示します。その「引導法語」の中で、時に静かに、時に大きな声で読み上げる部分を「二字関」(例「露」、「嘆」と言います。これは本来師僧が弟子を叱咤する言葉でしたが、葬儀においては故人をお悟りの世界に導くために用いられます。

当寺の最新情報をチェック!

■大安寺ホームページ

<http://www.daijanji.jp>

■大安寺携帯サイト

<http://keitai.daijanji.jp>



@daijanji2010

※行事予定などをお知らせします。



facebook

<http://www.facebook.com/daijanji>

大安寺の宗旨: 曹洞宗 本山: 福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖: 道元禪師 太祖: 瑩山禪師  
ご本尊: 釈迦牟尼仏 本尊唱名: 南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)